

参考資料

大阪府食育推進ネットワーク会議関係団体等における取組

「食育」に関するアンケートのまとめ

大阪府食育推進計画検討会設置要綱

食育基本法の施行に伴う大阪府における食育推進体制

大阪府食育推進ネットワーク会議設置要綱

食育基本法

食育推進基本計画のポイント

食生活指針

食事バランスガイド

統計資料等

食育に関する問い合わせ先





<p>団体名</p>	<p>社団法人 大阪エイフボランティアネットワーク</p>
<p>団体等の概要</p>	<p>「健康で明るく住みよい地域社会の実現を」 目的に、昭和29年9月「大阪府衛生婦人奉仕会」として設立、昭和40年4月法人化となり、平成7年大阪エイフボランティアネットワークに改称。女性の組織力を結集し、府民の健康づくり、地域の環境づくり、福祉の町づくりの実践活動を推進。(会員数 約50,000人)</p>
<p>活動内容 (現況と今後)</p>	<p>健康づくり運動 定期検診の受診の啓発と実践 栄養(料理)教室の開催 (支部において毎月1回開催) 生活習慣病予防のための料理教室、特に野菜たくさん・牛乳を使った料理教室を開催し、参加者多数で大変好評を得た。 体力づくり運動 (体操教室・歩こう会・体育祭の開催)他</p>  <p>環境づくり運動 毎月24日の「清掃の日」の活動 省エネルギー・資源愛護・リサイクル運動 食中毒予防(0157の予防)食の安全・安心についての研修会の開催、啓発用チラシの配布、手洗い運動他 ゴキブリ駆除活動は、6月には会員を動員して、ゴキブリ駆除のホウ酸団子を作って地域に配布、地域ぐるみの一斉駆除活動として成果をあげている。</p> <p>福祉推進運動 高齢者への食事サービス活動 (支部において社会福祉協議会と共催のもとに月1~2回) 高齢者歯科衛生訪問サービス事業(老人ホームでの義歯洗浄と歌体操の指導)他</p> <p>広報活動 機関紙「エイフ」(年間4回発行)での啓発活動</p> <p>行政・関係機関と協力して集中的に実施する活動 特に6月食育月間、8月食育強化推進月間「野菜バリバリ、朝食モリモリ元気っ子」推進キャンペーン 毎月1回定例理事会を開催、啓発</p> <p>今後の活動 エイフ活動の一環としての「母と子の健康を守る運動」にもつながり、本部では5月、支部指導者研修会で総務、保健予防、生活環境、福祉推進、広報部会に分かれて、食育について勉強する。支部においては、行政、関係機関とタイアップして研修会や料理教室を開催して食育の実践活動を推進する。</p>
<p>連絡先</p>	<p>電話 06-6933-8166 F A X 06-6933-8167</p>

<p>団体名</p>	<p>社団法人 大阪司厨士協会 (社団法人全日本司厨士協会 関西地方大阪府本部)</p>
<p>団体等の概要</p>	<p>昭和7年設立 昭和34年3月19日大阪府より社団法人認可。同年4月より社団法人大阪司厨士協会として活動を開始。調理技術のより一層の改善と工夫及び食材の研究開発を通して食文化の向上を図りそれをもって社会に貢献する。</p> <p>会員数1,100名 司厨士協会は世界司厨士協会連盟のもと世界87カ国が参加する西洋料理調理師の団体です。日本では北海道から沖縄まで13地区本部、47都道府県本部があります。</p> <p>世界司厨士協会連盟 会員 97万名 全日本司厨士協会 会員 250,000名 関西地方本部 会員 2,900名</p>
<p>活動内容 (現状と今後)</p>	<p>平成18年6月24日大阪市住之江区のアジア太平洋トレードセンターATCホールで開催された第1回食育推進全国大会にコマ出展参加。「日本古来の素晴らしい朝食を取り戻そう」をテーマに掲げ純有機栽培の米、卵を使用した朝食の試食を、会員であるホテルのシェフが数人コックコートを着て来場者に提供し、好評を博した。</p>  <p>今後の取組</p> <p>食育に係わる活動領域は非常に広いがその中において調理技術は大変重要な役割を担っていると認識している。</p> <p>数値を管理された枠の中で食べ物を作っても調理の技術でおいしくもなり、まずくもなる。食の乱れを少しでも改善するには極力旨い物を作って食べてもらうということから、調理技術のより一層の研究と食材の研究開発を進めていく。</p> <p>また、会員が多く所属しているホテル等に於いてキャンペーンスローガンを掲げ、イベント等を実施することにより、啓発活動を展開し、食の乱れの原因を探っていく。</p>
<p>連絡先</p>	<p>電話 06-6946-0073 URL http://www.cook.or.jp/ E-mail info@cook.or.jp</p>

団体名	社団法人 大阪食品衛生協会
団体等の概要	<p>大阪府域において食品の安全性確保のため、食品衛生等に係る事業を行うことにより、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、もって府民の健康の保護を図ることを目的に昭和39年9月設立。36業種団体、53支部、特別会員232社。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>平成18年6～7月（表彰式18年8月3日） 18年度食の安全安心啓発ポスター・標語コンクールを開催し、食品事業者、一般消費者から応募があり、食育、食中毒予防など意識の高揚を図った。 ポスターの部：181点　　標語の部：4,809点</p> <p>平成18年6月24日、大阪南港A T Cホールにおいて、内閣府と大阪府主催の「第1回食育推進全国大会」への出展参加し、食中毒予防普及啓発ポスター・標語の優秀作品を展示。</p>  <p>平成18年8月3日に、薬業年金会館において食品衛生フォーラムを開催し、京都大学生活協同組合食堂企画室 管理栄養士 友藤弘子氏による「外食産業における食育と衛生管理」と題し、講演会を実施した。 参加者約270名</p>  <p>平成18年9月13日～16日 「フードテック2006 / ジャパンフード2006」に参加し、インテックス大阪において、18年度食の安全安心啓発ポスター・標語優秀作品の展示、食品衛生相談コーナーを開設。</p> <p>今後の事業予定 府民、食品事業者らを対象に食の安全・安心・食育の啓発ポスター標語コンクールの実施、並びに当会機関紙に食育関連啓発記事を掲載。</p>
連絡先	<p>電 話 06 - 6227 - 5390 E-mail daishokkyo@ofha or jp</p>

団体名	大阪百貨店協会
団体等の概要	本協会は、昭和23年に設立。会員加盟9社21店舗
活動内容 (現状と今後)	<p>在阪百貨店では、お客様からの「信頼」を頂戴するためにも、日頃から食の安全と安心の確保に努めています。</p> <p>また、それらの一環としてそれぞれの百貨店において次のような取組を致しておりますとともに、協会としても食料品専門部会や品質管理部会などを設置し、情報の交換などに取り組んでいます。</p> <p>食の「安心・安全」な取組について</p> <p>「百貨店食品安全衛生パスポート」を従業員へ配付して、食品安全知識の向上に役立てています。</p> <p>栄養成分表示、カロリー表示、特定原材料アレルギー表示等の取組を実施しています。</p> <p>トレーサビリティの明確な食品、化学肥料の使われていない野菜などの追究を致しています。</p> <p>地産地消を意識した商品販売の取組の推進をしています。</p> <p>健康コーナーでの「有機栽培野菜や化学調味料、防腐剤等を抑えた無添加食品」のアイテム数の増加を促進しています。</p> <p>販促プロモーションを通して、食の基本をアプローチする「食育セミナー」等の実施拡大を行っています。</p> <p>栄養士などの有資格者の配置を推進しています。</p> <p>「健康増進法」に基づき喫煙対策の実施。</p> <p>全館禁煙を基本に、指定休憩所を設置して協力対応。</p> <p>レストラン・喫茶では、受動喫煙防止努力義務を受けて時間帯禁煙、分煙の取り組みを行っている。</p> <p>今後の取組と致しまして、以上の施策や活動を基に引き続き「健康増進法」「食品衛生法」「JAS法」など食品関連法令の遵守及び食品衛生の向上のための勉強会、並びに情報交換などを実施し、より、お客様への「安全・安心」を提供出来るように頑張っていきたい。</p>
連絡先	電話 06-6243-0081


団体名	社団法人 大阪府医師会
団体等の概要	<p>医道の高揚、医学および医術の発達ならびに公衆衛生の向上を図り、もって社会福祉の増進に寄与することを目的に、昭和22年に設立された社団法人で、現在の会員数は、約17,000人です。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>平成19年1月13日(土)、社団法人米穀安定供給確保支援機構、社団法人日本医師会との共催で、オーバルホール(大阪市北区)において食育健康サミットを開催しました。</p> <p>「生活習慣病予防とごはんを主食とした日本型食生活の意義」をテーマに、医師、栄養士等の医療関係者、約500名が参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 大阪府医師会会長 酒井 國男 ・司会 大阪府医師会理事 中尾 正俊 ・「メタボリックシンドロームの対策 - 食からみた課題」 大阪大学名誉教授/住友病院院長 松澤 佑次 ・「動脈硬化性疾患の予防と食生活」 日本医科大学内分秘代謝内科教授 及川 眞一 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>地域医師会では、地域における健康展・健康まつりの開催に展示・パネル等を出して、啓発に努めている。疾病に対する啓発とともに、食生活が、健康づくり、特に生活習慣病にとって重要であることを、府民・市民に、広く知っていただくことができる内容になるよう留意しております。</p> <p>その他、食育をテーマに取り上げた取組は行っていないが、今後とも普及・啓発等、必要に応じて取り上げていく予定です。</p>
連絡先	<p>電話 06-6763-7012(地域医療1課)</p> <p>URL http://www.osaka.med.or.jp/</p> <p>E-mail chiikiiryoy1@po.osaka.med.or.jp</p>


団体名	社団法人 大阪府栄養士会
団体等の概要	大阪府栄養士会は、会員約3,500名で栄養士の資質の向上を図り、大阪府民の栄養改善・食育の推進に努め、もって府民の健康増進に寄与することを目的として活動を行っています。
活動内容 (現状)	<p>平成18年7月に都市型の食育をテーマにした「食育フォーラム」をKKRホテル大阪でJA大阪中央会・スローフード協会と共催で開催しました。フォーラム300名、さらに大阪の食材を使った懇親会には100名以上の参加があり、活発な話し合いと交流の場となりました。</p> <p>今回は武庫川女子大学教授 榎形公也さんが基調講演、パネルディスカッションではJA大阪中央会 菊井専務、泉佐野市立はるか幼稚園 中村園長、府立健康科学センター 佐藤先生、辻学園 為後先生が参加、「自らの手でつくる・食べる経験が情操教育にとって大切か」その活動を具体的な「学力」と示す力が課題という意見も聞かれた。「食育への関心は高く、もっといろいろな人が積極的に参加して欲しい」という発展を呼びかけた。</p> <p>スーパーマーケット「イズミヤ稲田新町店」における食育のモデル的取組 目的：府民に健康的な食習慣を身につけてもらうために、府民に身近なスーパーマーケットをモデル的に「健康おおさか21推進店」として位置付け、企業や地域団体等と協働して、野菜摂取の増加と朝食の欠食減少に向けた取組を行い、食育の推進を図る。具体的には、店内のクッキングサポートコーナーで、会員が調理実演＋試食や栄養食生活の相談を含め、1日2回実施している。</p> <p>協働する企業及び機関（平成17年6月より継続実施） イズミヤ株式会社、(社)大阪府栄養士会、健康おおさか21推進府民会議、大阪府・東大阪市</p> <p>8月に「食育バスツアー」として、大阪のファーマーズマーケット「こ～たり～な」で子供が野菜の買い物体験をし、車中では野菜クイズを楽しんだのち、和歌山の田野浦漁港では漁船から魚の水揚げを手伝ったり、野菜と魚を使った料理体験をしました。さらに10月「鮭！イクラ食育体験として、北海道産の鮭についての食育イベント」を大阪市中央卸売市場調理室で親子30組を対象に行った。</p> <p>新米でイクラ丼！・大阪野菜と鮭の石狩鍋を調理し全員で試食し、アキサケを満喫しました。</p> <p>11月に“野菜の日 食育ツアー”：親子で体験！ 野菜を大好きになるタマネギ植付け&野菜スープ作りツアーとして、栄養士会・イズミヤグループと協働で梅田～イズミヤ八尾～富田林サバーファーム日帰りコースとして実施。 栄養士の「食育」に関する話、野菜スープ作りなど「キューピー食育ツアー」の内容で実施し、親子40人の参加を得た。</p> <p>(今後)</p> <p>食育・健康料理教室の開催、調理体験実習や試食、講話などを通じて望ましい食生活の実際を直接、地域住民（小学生、保護者）に指導する事業として、食品企業等と共同企画で食育活動を推進する。</p>
連絡先	電話 06-6943-7970 URL http://www.dietcalc.gr.jp/fuei/ E-mail eiyoinfo@titan.ocn.ne.jp



団体名	大阪府学校保健会
団体等の概要	<p>大阪府学校保健会は、府内における学校保健の振興を図り、学校教育の円滑な実施に寄与することを目的に設置しており、学校保健に関する調査研究や研修会の開催及び教材等の作成等、諸事業を展開している。そのなか、府学校保健会学校歯科医部会では、「歯と口の健康づくり」を推進していく観点から、食育を重点課題として、各種活動を展開している。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>大阪府学校保健会学校歯科医部会の「食育」に関する事業</p> <p>大阪府学校歯科医会役員及び加盟団体の長を対象に、食育に関する講演会を開催</p> <p>平成18年6月24日 「食育について」 大阪府立健康科学センター健康度測定部長 佐藤眞一先生</p> <p>平成18年10月7日 「食(食育)と学校歯科保健について」 大阪府立健康科学センター健康度測定部長 佐藤眞一先生</p> <p>大阪府健康福祉部健康づくり感染症課 大西宏昭先生</p> <p>講演会の開催</p> <p>演題：「最近の学校歯科保健と食育について」 講師：社団法人日本学校歯科医会理事 丸山進一郎先生</p> <p>日時：平成18年6月24日</p> <p>第50回社団法人大阪府学校歯科医会主催大阪府よい歯を守る学校園表彰式並びに大阪府学校歯科保健研究大会開催</p> <p>日時：平成18年12月7日</p> <p>講演会の開催</p> <p>演題：「歯から始まる健康と医療について」 講師：山梨医科大学名誉教授 株式会社栄養医学研究所代表取締役 佐藤章夫先生</p> <p>日時：平成19年2月3日</p>
連絡先	<p>電話 06-6944-6903 大阪府学校保健会事務局(大阪府教育委員会事務局教育振興室保健体育課)</p> <p>電話 06-6772-8367 大阪府歯科医師会学術課(社団法人大阪府学校歯科医会)</p> <p>URL http://www.fugakushi.jp/</p> <p>E-mail fugakushi@circus.ocn.ne.jp</p>

団体名	大阪府漁業協同組合連合会
団体等の概要	<p>大阪漁業の発展のため、所属員の生産能率向上など事業の振興を図り、その経済的、社会的地位を高めることを目的として、水産業協同組合法に基づき昭和25年5月25日に設立された。 会員数 24漁業協同組合。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>「^{なにわ}魚庭食育体験隊」</p> <p>平成18年10月29日に泉佐野漁港で開催された青空市場移転10周年記念イベント『お魚の祭典in泉佐野青空市場』において、子ども達が食育を通じて大阪湾の魚の魅力とおいしさを体感することを目的として、親子ファミリーの「魚庭食育体験隊」を公募し、下記の体験講座を開催した。</p> <p>募集方法 プレス発表（読売、産経等）及び 大阪府のホームページ</p> <p>参加者 20組（約80人・家族で参加）</p> <p>取組内容</p> <p>体験講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セリで魚をゲット...セリ台を囲みトレイに盛られた魚に値をつけるセリを体験し、魚の見方、値段の決め方を学ぶ ・お魚料理の実習...泉州の郷土料理じゃこごうこ・ウシノシタ煮付け・ウシノシター夜干し ・お魚料理の試食...上記の料理及びたこ飯、淀川産シジミの味噌汁 ・お魚ふれあいクイズ...大阪湾の魚や漁について楽しく学ぶ ・漁船の見学...底びき網漁船の船上で漁具や漁獲方法を学ぶ ・稚魚放流...クロダイ・ヘイジカレイの稚魚を放流し、魚に親しむ <p>ガイドブック</p> <p>一連の体験プログラムの案内のためのパンフレットを作成した。</p> <p>魚庭物(なにわもん)の普及活動</p> <p>イベント会場に設置されたテントの食育ブースにおいて、「よみがえる海 よみがえる魚庭物」「お魚博士が語る！」などのパネル展示と説明によって魚庭物(なにわもん)のPRを行った。</p> <p>魚庭物(なにわもん)の名称は、現在、商標登録手続きを行っており、大阪湾で漁獲され府下各地の漁港に水揚げされた魚介類の総体として、知名度の向上を図り、ブランド化をめざしている。</p>
連絡先	<p>電話 072-422-4763</p> <p>URL http://www.osakagyoren.or.jp/gaiyou.htm</p> <p>E-mail main@osakagyoren.or.jp</p>



団体名	社団法人 大阪府歯科医師会
団体等の概要	<p>社団法人 大阪府歯科医師会は、大正15年、医道の高揚、歯学の進歩発展と公衆歯科衛生の普及を図り、会員の社会的地位の向上に資し、ひいては社会および会員の福祉を増進することを目的として設立されました。</p> <p>会員数は5,563名（平成18年10月末現在）</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>大阪府歯科医師会は、食育は生涯を通じた課題であると認識しています。また、ライフステージごとに、おいしく味わうためには味覚をはじめとする口腔内感覚が大切であり、五感を通じた大脳生理学的な働きや「こころ」を育てることが重要であると考えています。</p> <p>食育に関連して歯科からは、ライフステージごとの「噛むこと」「味わうこと」の大切さ、そして「噛むこと」「味わうこと」は、学習によって身に付いていく能力であり、その育成がいかに重要であるかを伝え、食育のより一層の充実を図っていきたいと考えています。</p> <p>平成17年11月5日に、府民を対象とした大阪歯科保健大会（会場大阪府歯科医師会館）において、「健康おおさか21推進府民会議 歯の健康づくり部会」との共催で、食育に関連する府民公開講座を開催し、歯科保健関係者はもとより、関係専門職種や一般住民に情報発信した。</p> <p>「食えること味わうこと おいしさ、食育、健康について」 大阪大学大学院人間科学研究科教授 山本 隆氏</p> <p>「食育 - 食生活と歯の健康」 農林水産省近畿農政局御坊統計・情報センター統括情報官 中尾 卓嗣氏</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>山本 隆 教授</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>中尾 卓嗣 氏</p> </div> </div> <p>食育に関連して平成19年度には、今のところ特別なイベント的な取り組みの予定はないが、市町村において保健事業として実施されている両親教室や妊産婦教室等の母子保健事業の取り組みの中で、歯科からライフステージごとの「噛むこと」「味わうこと」の大切さのアピールと、その育成支援の強化を図るため、大阪府歯科医師会の公衆歯科衛生部や学校歯科衛生部等の活動を通じて、より一層の周知徹底を図っていく予定である。</p> <p>ライフステージごとの「噛むこと」「味わうこと」の大切さを考えた場合に、高齢者における義歯の機能の保持も大きな要素となることから、高齢者に対する啓発も老人歯科保健対策推進室等の活動を通じて強化していく予定である。</p>
連絡先	<p>電話 06-6772-8886 URL http://www.oda.or.jp</p>

団体名	大阪府食生活改善連絡協議会
団体等の概要	<p>大阪府食生活改善連絡協議会は、市町村の開催する食生活改善推進員養成講座の修了者（食生活改善推進員）で組織された食生活改善推進協議会を構成員として、会員の資質の向上を図るとともに栄養改善の実践運動をすすめ、大阪府民の健康づくりに寄与することを目的に昭和58年7月に設立された団体です。会員数2,800人。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>私たちは、「骨にカルシウム貯金を」「緑を食べよう」などのキャッチフレーズで骨粗しょう症予防及び野菜摂取の啓発、減塩テーブを活用した減塩メニューの普及啓発を始め、バランスよい食生活、ひとり暮らし老人への給食サービス、高齢者を対象にした健康づくり教室、男性の食生活の自立を促す料理教室など、地域のニーズに応えながら食生活改善活動を自主的に行っています。</p> <p>近年は子どもを対象にしたクッキングセミナーや若い保護者などへの食育活動も大きな柱となっています。平成15年度より日本チェーンストア協会関西支部と協働し、大阪府の食育推進強化月間である8月に、健康的な食生活習慣を身につけることを目的として、子どもたちの参加型イベント「野菜バリバリ朝食モリモリ元気っ子」推進キャンペーンを、各地域ブロックの大型スーパーにおいて一斉に実施しています。</p> <p>オリジナルの食育媒体「食品つり」は、ビニールプールの中の食品カードを吊り上げ、3色栄養に色分けされたバケツに入れるというものですが、どこのキャンペーン会場でも好評で、子どもたちの列が絶えません。</p>  <p>子どもクッキングセミナーでは、野菜たっぷりメニュー、簡単に作れる朝食メニューなど、イラストを多用したオリジナルの子ども向けテキストを作成し、子どもたちに料理する楽しさを伝えています。また、若い保護者向けの野菜使いきりアイデア集や伝統食のテキストなども作成し、次の世代に伝えたい料理の普及に努めています。</p>   <p>これからも、地域に根ざした活動を通じて、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い対象に食生活改善の輪を拡げていきたいと思えます。</p>
連絡先	<p>電話 06-6941-0351 内線2524 大阪府健康福祉部地域保健福祉室健康づくり感染症課内</p>

団体名	社団法人 大阪府食品産業協会	
団体等の概要	大阪府下の食品製造業、卸売小売業、外食産業等の食品産業界及び関連業界を幅広く包括する公益法人。会員数226。	
活動内容 (現状と今後)	<p>平成18年度</p> <p>第1回食育推進全国大会への出展参加 平成18年6月24日(土) 大阪南港ATCホール</p> <p>「歴史と伝統を誇る大阪昆布の生いたち」 昆布職人名工のおぼろ 昆布の手すき実演及び 小学生児童の親子20数組の参加によるおぼろ 昆布削り作業の体験実習など</p> <p>食育推進ボランティア活動研修会の開催 平成18年11月2日(木)及び4日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育とは - 最近の食育活動事例から考える」 講師 食育・料理研究家 坂本 廣子 氏 ・研修参加ボランティアによるグループ討議 『食育とは何か? - これからの食育を考える』 約200名参加 <p>食品産業事業者 食育推進研修会 平成19年1月26日(金) 国民会館12階ホール</p> <p>ビデオ上映 「- はじめよう食育 - 『食』見直しませんか。」 講 演 「カゴメの食育支援活動について」 (- 健康おおさか21・食育推進企業団の活動 -) 講師 カゴメ株式会社大阪支店 大谷 泰正 氏 (健康おおさか21・食育推進企業団代表)</p> <p>平成19年度(計画予定)</p> <p>食育推進ボランティア活動支援事業 食育推進ボランティア活動講習会の開催</p> <p>食品産業事業者 食育推進研修事業 農水産物生産地及び食品製造工場等の見学研修(年3回程度)</p>	 
連絡先	<p>電 話 06 - 6353 - 2878 F A X 06 - 6353 - 2630 U R L http://www.shokuzaijukan.com/web/ofia/ E-mail s2878@skyblue.ocn.ne.jp</p>	

団体名	社団法人 大阪府私立幼稚園連盟
団体等の概要	430園の加盟園がそれぞれ建学の精神のもと、私学の独自性をもって幼児教育を展開し、数年来、食育についても多くの園が様々な形で取組をしているところです。
活動内容 (現状と今後)	<p>「サラダパーティ」・「手作りサンドパーティ」を開催 親子で旬の野菜を食べたり、手作りサンドを作ってお食事会を開催しました。園児と保護者で230人程の参加がありました。 (大阪市天王寺区の園)</p> <p>クッキング 年長児 1学期：フルーツゼリー作り 2学期：いなりずし作り 3学期：サンドイッチ作り 年中児 2学期：ロールサンド作り 3学期：ラップおにぎり・ツナオムレツ・サラダ他 年少児 3学期：パフェ作り (大阪市西淀川区の園)</p>  <p>平成16年度の「園児募集案内」に食育の取組について掲載し始め、保護者や願書希望者に配布しています。</p> <p>給食の見直し 保護者の給食に対して、アレルギー体質やアトピーなどで配慮が必要な子供たちへの対応の要望が出てきたことを踏まえ、保護者有志と共に給食についての見直しをし、その結果、食品添加物や農薬使用の素材を可能な限り使用しないで作っていただける所に切り替え今日に至っています。(市内の園)</p> <p>給食指導 給食の日は献立名や食材名を意識したり理解できるように食材について説明するなど、体の成長との関わりなども含めて給食指導をしています。</p> <p>栽培の経験 自分で植えた野菜を育てる経験ができるように初夏に夏野菜を植木鉢に植えて育て収穫する楽しみを経験できるようにしています。そのことが嫌いだった野菜でも自分が育てたということで食べられるようになった子供たちもいます。(府内・市内の園)</p>
連絡先	<p>電話 06-6771-3514 URL http://www.kit.hi-ho.ne.jp/shinsei-youchien/index.html E-mail shinsei-youchien@kit.hi-ho.ne.jp</p>

団体名	財団法人 大阪府スポーツ・教育振興財団	
団体等の概要	<p>学校給食の普及充実及びスポーツ、教育、文化の振興を図り、府民生活の向上と健康の保持増進に貢献することを目的に設立された。</p> <p>学校給食の重要性にかんがみ、児童・生徒に安全・安心な学校給食用物資を安定供給し、学校給食の普及充実や食育推進に取り組んでいる。</p>	
活動内容 (現状と今後)	<p>食育の推進 ～学校給食を生かして～</p>  <p>第1回 食育推進全国大会</p>  <p>第60回 大阪府学校給食大会</p>  <p>親子学校給食パン作り講習会</p>	<p>学校給食への安全・安心な物資（パン・米・牛乳など）の安定供給</p> <p>大阪の地場産物を学校給食へ泉州たまねぎ、大阪産のみかんなどを活用した食品を学校給食へ供給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉州産たまねぎのソテードオニオン ・和泉産みかんの冷凍デザート ・大阪産みかん缶詰 <p>平成18年6月24日に、大阪南港ATCホールで開催された、第1回食育推進全国大会に出展しました。</p> <p>テーマ「大阪の学校給食の今昔」</p> <p>昔の学校給食試食及び各種展示等を行い、約2,300人の来場者がありました。</p> <p>平成18年7月25日に森ノ宮ピロティホールで開催し、約700人の参加がありました。また記念大会として、府内の児童から「学校給食」をテーマに作文募集し、約3,000人の応募があり、最優秀作品を同大会で表彰のうえ披露しました。</p> <p>「食育」に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村・学校での地場産物の活用など食育推進の取り組みを「給食だより」（年4回・1500部）に掲載し、ホームページでも提供している。 ・食育関係のビデオテープ、書籍、食品レプリカ等の貸出をしている。 <p>大阪府教育委員会の指導を得て、「食育ハンドブック」を発行することとしている。</p> 
連絡先	<p>電話 06-6933-7232</p> <p>URL http://www.oskz.com</p> <p>E-mail kido@oskz.com</p>	





<p>団 体 名</p>	<p>大阪府生活協同組合連合会</p>	
<p>団体等の概要</p>	<p>大阪府内の生協が会員となり、くらしの安全・安心を守る活動、平和な社会の実現を求める活動、会員生協の交流を進める活動を行っています。[1954年設立] 会員の生協：地域購買生協11生協、医療生協17生協、大学生協15生協、 職域生協3生協、共済生協2生協、事業連合2連合、合計50生協</p>	
<p>活動内容 (会員生協の取り組みの一例です。詳しくは、ホームページをご覧ください。)</p>	<p>2006年10月7日、松原市エコファーム農地において、さつまいもの収穫体験企画を開催し、26家族95名の参加がありました。 エコファーム農業体験は、2005年9月に開始し8企画、約600人が参加しています。 【大阪いずみ市民生活協同組合1974年設立】 ホームページ：http://www.izumi.coop/</p>  <p>2006年8月8日に、大阪北生協ふれあいセンター箕面において「夏休み親子クッキング」を開催し、親子18人の参加があり食の大切さと楽しさを実感しました。 【大阪北生活協同組合1950年設立】 ホームページ：http://www.osakakita.or.jp/</p>  <p>2006年8月3日、大阪よどがわ市民生協本部において「親子で挑戦！みそづくり」、11月に「親子で挑戦！味噌汁作り」を開催し、親子14組34人が参加しました。 【大阪よどがわ市民生活協同組合1977年設立】 ホームページ：http://www.yodogawa.coop/</p>  <p>2006年7月23日に、茨木市忍頂寺において、30人が参加して『田んぼの生き物調査』を開催しました。 【生活協同組合コープ自然派ピュア大阪2004年設立】 ホームページ：http://www.shizenha-osaka.jp/</p>  <p>年3～4回「ちょっとお得な料理教室」と題し、安全で豊かな食生活の提案を行っています。毎回3品を一献立とし、参加者24名をグループ6人ずつ四グループに分かれて調理実習を行います。 【生活協同組合おおさかパルコープ1991年設立】 ホームページ：http://www.palcoop.or.jp/</p> 	
<p>連絡先</p>	<p>電 話 06-6762-7220 U R L http://www.osaka-union.coop/ E-mail osaka.furen@ma4.seikyoku.ne.jp</p>	

団体名	社団法人 大阪府畜産会	
団体等の概要	畜産の振興を目的に昭和23年8月7日設立された。 会員数は正会員44団体、準会員18団体。	
活動内容 (現状と今後)	<p>平成18年6月24日に、大阪市住之江区アジア太平洋トレードセンターで開催された第1回食育推進全国大会に参加。</p> <p>平成18年8月25日に、当会消費者モニターを対象に、能勢町の採卵養鶏場及び、おおさか府民牧場で家畜とのふれあい、アイスクリームの手作り体験を実施し、39名の参加がありました。</p> <p>平成18年10月15日に、能勢町のおおさか府民牧場で開催された「大阪畜産フェア」に参加し、府内畜産・畜産物の紹介、豚の丸焼きは牛乳、バター、はちみつ等を使ったホットケーキや蜂蜜等の試食・販売を実施、またミツバチや蜂具の展示、蜜蝋でのろうそく作りなどを行った。行列が絶えない程の盛況であった。</p> <p>活動予定 「(仮)肉用牛生産と牛ふん堆肥を使った土づくりによるエコ野菜栽培の現場を知る」 平成19年3月後半 「農」に親しむライフスタイル推進府民会議、大阪府「農の匠」の会との共催</p> <p>来年度も府民、消費者を対象に畜産ふれあい体験交流、畜産加工調理体験教室などの食育活動を年4回予定しています。</p>	  
連絡先	電話 06-6941-1351 F A X 06-6920-2228 E-mail osla27@mb.infoweb.ne.jp	

<p>団 体 名</p>	<p>社団法人 大阪府調理師会 (日本調理師連合会 大阪府調理技能士会)</p>
<p>団体等の 概 要</p>	<p>(社)大阪府調理師会の概要 調理師の資質の向上と合理的調理技術の発達を図り、もって日本料理の発展と国民食生活の改善に寄与し、併せて調理師の職業の安定及び福祉の増進を期することを目的に、昭和33年10月31日に大阪府知事より設立認可された公益法人。</p> <p>日本調理師連合会の概要 日本料理の向上進歩を目標とし、会員の知識技能を錬磨し相協力して業界の発展に寄与し、調理師の社会的地位の向上と会員相互の親睦を図るを以て目的とし、昭和26年5月1日に任意団体として設立された。</p> <p>大阪府調理技能士会の概要 会員相互の協調と技能水準の向上を図り、技能尊重気運を醸成し、以て技能労働者の福祉の増進を図るとともに、その社会的地位を高めて産業の発展に寄与することを目的として平成元年6月1日に設立。上部団体の(社)大阪府技能士会連合会へ加盟。</p>
<p>活動内容 (現状と今後)</p>	<p>学校等における食育の推進 ものづくり教室(体験からわかる食)として中学校へ講師を派遣し、子供たちに料理体験、日本料理のマナー指導し、また一般の方にも作ることの楽しさ、喜びを体験してもらえよう、プロに学ぶ料理体験を行っている。</p> <p>平成18年度実績 6月 13日(火)寝屋川市立第六中学校 7月 6日(木)池田市立細河中学校 9月 4日(月)東大阪市立柏田中学校 10月 26日(木)箕面市立第六中学校 11月 27日(月)島本町立第一中学校</p> <p>平成19年度は現在のところ未定だが、引き続き学校へ講師を派遣し、続けていく予定</p> <p>月刊専門日本料理『味感』での全国的な食育活動 月刊専門日本料理『味感』を通し、地域の特性を活かした地産地消(なにわの伝統野菜ほか)を紹介、生産者と消費者との交流の促進等、全国へ情報源として毎月発刊している。</p>
<p>連 絡 先</p>	<p>電 話 06 - 6312 - 8851 U R L http://www.chorishi.jp/</p>

団体名	大阪府農業会議(農業委員会)
団体等の概要	<p>大阪府農業会議は、農業委員会等に関する法律に基づき昭和29年に設立された認可法人で、市町村農業委員会の会長、各種農業団体の代表、学識経験者など57名の会議員で構成。農業の振興等を図り、農業者の地位向上に寄与することを目的としている。また、農業会議を構成する農業委員会は、農業者の選挙によって選ばれた代表を中心に構成されている行政委員会。府内43市町村に設置され、計約900名の農業委員で構成されている。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>府内農業委員会・農業会議では、組織運動「農地と担い手を守り、活かす『都市農業リフレッシュ運動』」の一環として、食農教育の推進に取り組んでいる。</p> <p>農業委員会では、市町村・教育委員会・JA・学校等と連携し、農業体験学習の指導や、学校給食への地元産農産物導入に向けた活動に取り組んでいる。</p> <p>吹田市...平成12年11月に農委が主導し「農業・教育連携協議会」が発足。学童農園事業を開始し、農作業体験学習を行っている。 茨木市...協議会設置を提案した農業施策建議やフォーラムの開催など、農委による働きかけで「教育と農業連携協議会」の発足に至った(14年3月)。 高槻市...農委が建議を通じて学校給食での地元産米・野菜の導入などを訴えた結果、12年12月に「給食デー」を実施。その後、地元産米給食の実施回数は年々増加。 田尻町...農委で組織する遊休農地対策推進協議会が12年より古代米の栽培を開始。小学生等に農業体験を指導し、農業・教育の結びつきを強化。 寝屋川市...農委による要請活動の結果、「教育、農業連絡協議会」が設立。16年11月から地元産の野菜・米を全小学校の給食に導入。 和泉市...12年12月に「農業振興会」が設立、農委会長が会長に就任。18年4月現在で市内の小・中学校31校で、週3回の給食に地元産米を使用。 堺市...農委が建議で日本型食生活の推進を提言、17年から週2回の米飯給食の導入に至った。 熊取町・八尾市・守口市・枚方市等...農業委員が地元小学校等での農業体験学習の指導に従事。 河内長野市...農委が市内全戸に配布する「農委だより」が小学校の教材に活用されている。</p> <p>農業会議では、各農委が取り組む食農教育活動への支援をはじめ、フォーラム等の開催など各種啓発活動を展開。</p> <p>主なものは、「農業と教育の連携を考えるフォーラム」(平成15年2月)や「食育推進全国大会」(平成18年6月)への出展など。</p> <p>また、啓発資料として、「『農業と教育の連携』にむけて」(平成15年2月)、「農業者が伝えたい“大切なこと”」(平成18年3月)などを作成、配布。最近では、来年3月策定予定の「府食育推進計画」の検討過程への反映や、食育推進に向けた施策検討への活用を目的に、農業者、農業委員、食品関連事業者等に対するアンケート調査を実施。現在、調査結果の分析中。</p>
連絡先	<p>電話 06-6941-2701 URL http://www18.ocn.ne.jp/noukai27/ E-mail onk@silver.ocn.ne.jp</p>



団体名	大阪府農業経営者会議
団体等の概要	<p>昭和47年に有志農業者で設立。府全域をカバーする農業経営者の自主独立組織として、「農業のロータリアン」を意識した活動を展開。 会員数は114人。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>農業経営のプロとして、単なる「収穫体験」ではなく、植物や動物を育てる大変さや素晴らしさを実感し、“いのち”・“食べ物”を学ぶ機会を提供している。</p> <p>平成18年6月24日に、アジア太平洋トレードセンターATCホールで開催された第1回食育推進全国大会に出展。会員の生産した農産物の展示、活動紹介のパネル掲示を行い、来場者が地元産の農産物を見て、触って学ぶ機会を提供。</p>  <p>上記のような組織活動のほか、会員個人や地域グループ、行政機関などと連携した活動も進めている。</p> <p><u>水稲(お米)を教材にした活動</u></p> <p>水稲の場合、ともすれば田植えや稲刈り体験に偏りがちであるが、は種からしっかり学習</p>  <p><u>花を教材にした活動</u></p> <p>子どもたちが普段あまり目にすることがない栽培ハウス内を開放するなど、見学も積極的に受け入れている。</p>  <p><u>野菜を教材にした活動(関係機関と連携)</u></p> <p>食農教育活動では、教材やカリキュラムの作成、学校との調整などが大きな負担になる場合がある。府や市町村、JAなどの協力により、負担を軽減して充実を図った活動も行っている。</p> 
連絡先	電話 06-6941-2701(事務局：大阪府農業会議)

団体名	大阪府農業法人協会	
団体等の概要	<p>大阪府農業法人協会は、農業法人経営者等の自主性と主体性を基本とした組織的活動により、相互研さんなどを通じて経営の改善と発展をめざすことを目的に平成11年5月に設立。会員14経営体、賛助会員2団体で構成。</p>	
活動内容 (現状と今後)	<p>農業法人協会では、料理人グループと連携し、消費者や小学生親子等を対象に、府内産農産物を使った料理教室などを内容とするイベントを開催することで、食農教育推進に取り組んでいる。</p> <p>なにわ野菜を囲むクッキング教室（平成16年1月25日） 京阪神の料理人グループ「まんでい会」とともに、大阪産農産物を用いた親子クッキング教室を開催し、農産物の歴史や特徴、具体的な調理方法を消費者に伝える活動を展開した。</p> <p>大阪農業ふれあいツアー（平成17年3月25日） 消費者グループ、小学生親子等を対象に、生産現場の見学と大阪産農産物を使った郷土料理教室を内容とするふれあいツアーを開催。 農業経営の現状を伝えるとともに、料理体験を通じた大阪農業の理解促進に努めた。</p> <p>なにわ野菜を囲む料理懇談会（平成18年3月22日） 地元食材にこだわる料理人などで構成するNPO法人浪速魚菜の会と料理懇談会を開催。農業法人協会会員が生産した農産物を活かした創作料理が次々と登場し、農のプロと食のプロとの間で本物の農産物の味を伝えていくための重要性について意見交換が行われた。</p> <p>食育推進全国大会（平成18年6月24日） 大阪府農業会議、大阪府農業経営者会議とともに「農業と教育の連携に向けて」をテーマとしたブースを出展。 会員が生産した農産物やパネルを展示するとともに、浪速魚菜の会と連携して「野菜のすり流し」の試食コーナーを設置した。</p>	 
連絡先	<p>電話 06-6941-2701(事務局:大阪府農業会議)</p> <p>E-mail onk@silver.ocn.ne.jp</p>	

<p>団 体 名</p>	<p>大阪府農業協同組合中央会</p>
<p>団体等の概要</p>	<p>大阪府内の16JA及び連合会への指導、監査等を行っているが、大阪の農業と農産物を広く府民にPRする「食農教育」を子供から、大人までを対象に実施している。</p>
<p>活動内容 (現状と今後)</p>	<p>大阪府の関係部局や食育関係団体と連携しながら、大阪産農産物や大阪農業を活かした食育＝「食農教育」を多数展開。</p> <p>全JAでの食農教育プランの策定指導と実践支援 各JAでの、バケツ稲づくり、米づくり体験の実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="376 701 612 931"> </div> <div data-bbox="702 701 1015 931"> </div> <div data-bbox="1102 701 1422 931"> </div> </div> <p style="text-align: center;">バケツ稲作りセット 親子田植え体験 親子稲刈り体験</p> <p>「ごはん」を中心とした日本型食生活の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米の栄養と機能性の啓発 ・大阪のお米を使った親子料理教室の開催 ・大阪のお米と野菜を知るクイズ ・梅田お米ギャラリーでのイベント ・ごはん食啓発イベントの開催 <div data-bbox="1114 1019 1422 1249"> </div> <p style="text-align: right;">なんばパークスでの米消費拡大イベント</p> <p>大阪教育大学附属平野小学校のダッシュ村への支援 同小学校の校庭の大学跡地を、開墾。虫たちがいるヒロoppaと水田、畑に。平野ダッシュ村と命名。当会も米づくり、野菜づくりを支援。</p> <p>大阪産野菜を使った料理講習会の開催等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象別講習会 (OL、一般、親子、職員等) ・関係団体の講習支援 <div data-bbox="885 1480 1158 1682"> </div> <p style="text-align: center;">大阪産野菜を使ったおせち料理講習会</p> <div data-bbox="1177 1480 1422 1816"> </div> <p>大阪食育連絡会議を通じた食育活動 おおさか食育フォーラムの開催 食育バスツアーの実施</p>
<p>連絡先</p>	<p>電 話 06 - 6941 - 5749 U R L http://www.jaosaka.or.jp E-mail einou@chu.jaosk.jp</p>

団体名	大阪府「農の匠」の会
団体等の概要	<p>「農の匠」は、自ら優れた農業経営を行い、将来の地域農業の中核となる農業後継者の確保、育成に深い理解と熱意で、指導的役割を果たし、意欲的に地域農業の振興に取り組んでいるとして、大阪府知事の認定を受けている農業者。</p> <p>大阪府「農の匠」の会は「農の匠」を会員とする組織で、農業の社会的地位の向上を目指し、農業の若い担い手の育成・確保、大阪農業の振興に寄与することを目的として活動している。</p> <p>平成5年度設立、会員99名（平成18年11月現在）。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>大阪府「農の匠」の会では、会の活動の柱の一つとして「農業体験学習の推進」を掲げています。</p> <p>次代を担う子どもたちの健全な育成と農業への理解促進のため、学校関係者や行政と連携し、学校における農業体験学習の取組を支援しているほか、地域ぐるみの取組も積極的に推進しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>小学校教職員向けの農業体験学習に関する研修会 ぶどう作りに関する体験の後、農業体験学習について教職員と意見交換を行った。 （平成17年8月、柏原市にて）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>地域住民を対象とした米づくり体験活動 地域の農業者・都市住民双方を巻き込んでのまちづくり活動で、「農の匠」が主導的な役割を果たしている。（平成18年6月、堺市にて）</p>
連絡先	電話 06-6944-7541 （大阪府環境農林水産部農政室推進課担い手育成グループ内）




団体名	大阪府保育士会
団体等の概要	大阪府内の民間保育園（認可施設）の保育士・職能組織団体。 会員保育園 466園（H18.11現在）
活動内容 (現状と今後)	<p>平成17年7月14日～15日に、神戸市にて開催された「平成17年度近畿ブロック保育研究集会」における第5分科会「0歳児の現状と保育・子育て支援のあり方 - 保育所保育指針と保育実践を考える - 」で、大阪府保育士会・発題担当者より発題。食育をテーマに、各家庭にアンケートを配布し、家庭での食事、おやつ摂取状態、好き嫌い、マナー等について現状を把握。「食」に対する意欲や意識を高める為に保育園として求められる役割を考え、更にそれを家庭につなげていくことを課題とし、研究に取り組んだ。</p> <p>また、大阪府保育士会研修委員会で、研修レポート（毎年発行）として研修内容をまとめ、全会員保育園に配布し研究発表をとおして食育の普及につとめる。</p>  <p>平成17年9月14日に、大阪社会福祉指導センターで「心と体を健やかに～食べることは生きること～」を講演テーマに保育士研修会を開催。</p> <p>132人が参加。参加者は保育士だけでなく、栄養士、調理師も積極的に参加し、保育園での食事やおやつの重要性を学ぶ。</p> <p>また、上記同様、大阪府保育士会研修委員会で、研修レポート(毎年発行)として研修内容をまとめ、全会員保育園に配布。普及につとめる。</p> <p>平成18年7月に全国保育士会が各都道府県・指定都市給食研究委員を中心に「食育」に関するアンケート調査を実施。大阪府保育士会としても給食研究委員を中心に、調査活動に協力する。</p> <p>今後の取組としては、保育園での食育の取組について更に高めていけるよう研修会の開催等、検討していく。</p> 
連絡先	<p>電話 06-6762-9001</p> <p>URL http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/</p> <p>E-mail hoiku@osakafusyakyo.or.jp</p>

団体名	枚方市私立保育連絡協議会
団体等の概要	<p>本会は、枚方市私立保育園の振興を図り、また相互連絡、研修等組織的活動を促進し、よりよい保育と地域福祉の向上につとめると共に会員相互の親睦を図ることを目的とする。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>平成18年6月24日、内閣府と大阪府主催の「第1回食育推進全国大会」 ～いつでもどこでも楽しい食育～が大阪市のアジア太平洋トレードセンターで開催され、全国の保育園を代表して参加しました。出展団体102団体、出展ブース87ブース、来場者数10,200名ありました。</p> <p>食べることは生きることの源であり、心と体の発達に密接に関係し、特に乳幼児期から発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ねていくことにより、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本となる「食を営む力」を培うことができます。これらのことを踏まえ、子どもたちの育ちを支えることを担う保育園としても、食育について目標を掲げ取り組んでいることを認識してもらい、更に食育への啓発のために、平成18年6月24日にリーフレットを3,000部作成し、配布しました。</p> <div data-bbox="1002 719 1426 981" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="427 1196 820 1503" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="919 1196 1302 1686" data-label="Image"> </div> <p>保育園における食育活動を通して、これからの保育園のあり方を創造する。 (保育士・栄養士・調理員の合同研修 実践事例報告など) 地域ぐるみの食への関心を高める取り組みを实践する。 (生涯学習センター・子育てサロンでの調理実践など)</p>
連絡先	<p>電話 072 - 858 - 2278 URL http://www.ans.co.jp/u/hirakata/</p>

団体名	大阪府立健康科学センター(ゲンキープ大阪)
団体等の概要	<p>大阪府立健康科学センターは、府民の健康づくりの拠点施設として、平成13年7月にオープンしました。「科学的・実践的な健康づくり技法の開発・普及」「健康情報発信機能」「健康づくりを推進する指導者の育成」「健康づくり活動の展開」を4本柱として、様々な事業を行っています。</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>ITによる情報発信 食育推進プロジェクトの一環として、食育推進プログラム「おおさか食育通信」ホームページを開設し、維持・更新作業を行っています。また、月に1回メールマガジンを配信し、大阪府内の最新情報を提供しています。</p> <p>印刷媒体による情報発信 センター独自に食の情報発信をするとともに、JA大阪やスーパーの(株)万代等他機関との連携により冊子やリーフレット・販促チラシ等での情報発信を行っています。</p> <p>ヘルシーメニューの監修 平成15年よりローソン(株)と健康弁当&惣菜・サラダの開発、18年6月ヘルシー外食推進協議会に協力したヘルシーバランス弁当の監修(食育全国大会で販売)、18年6月よりホテルニューオータニ大阪での「カラダSMILEメニュー」の監修などコンビニ、飲食店、ホテルなどと連携してヘルシーメニューを推進し、食の環境づくりを行っています。</p> <p>野菜たっぷりお好み焼き 大阪府がヘルシー外食推進協議会に委託して行っている「プロの調理人と作ろう!野菜バリバリお好み焼き&たこ焼き」体験イベントに協力していただいた千房(株)考案のお好み焼きをもとに、「野菜めっちゃバリバリお好み焼」を千房(株)と協働で開発し、平成17年11月より西日本の高島屋と通販で販売しています。</p> <p>食育ツアー 健康おおさか21・食育推進企業団や(社)大阪府栄養士会の協力のもと、食育バスツアーを平成18年春休みと夏休みに企画・実施しました。スーパーマーケットの探検、野菜の収穫と調理実習、食品工場の見学などをメインに、栄養士が同行し、バスの中でも野菜やバランスの話などを行いました。</p> <p>食育バイキング ホテル日航大阪に大阪府が協力して、平成18年7月15日~8月31日に実施した「サマーファミリーバイキング」を監修しました。9,300名の方が利用され、食育の情報を記載したランチョンマットを使用し、各メニューに赤・黄・緑の食品群で色わけされたカードを掲示し、楽しく食事をしながら栄養知識が学べるバイキングとなりました。</p>
連絡先	<p>電話 06-6973-3535 URL http://www.kenkoukagaku.jp E-mail info@kenkoukagaku.jp</p>



団体名	NPO法人 関西消費者連合会
団体等の概要	昭和37年消費者相談、調査・研究活動、消費者教育の啓発事象等、消費者問題のコーディネーターとしての役割を担う。
活動内容 (現状と今後)	<p>“第44回消費者大会2006”参加者998人 平成18年8月10日 八尾市文化会館小ホール 啓発ビデオ上映・食事バランスガイドの説明・豆運びによる箸の使い方の指導 ニギニギ体操・散歩しよう(市内の地図づくり)・農産物(地場産)地図を作り展示をしました。</p> <p>小学生を対象に、こども消費者教室を7月24日より5日間、婦人会館において実施。おにぎりづくりをおこない、延べ490人の参加がありました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>食品衛生パトロールを6月12日、12月5日に101人参加し八尾保健所衛生課長と共に市内スーパーマーケット、百貨店を巡回し食品の管理状況のチェック、表示の実態調査を行いました。</p> <p>地域の農産物を学習するために、6月15日子どもと一緒にいもほりを実施し、15人の参加がありました。</p> <p>学習会“農産物を調べよう”を7月25日、婦人会館で行い99人の参加がありました。</p> <p>福祉と健康展(八尾市主催)に参加、子どものおやつ作りについての展示、箸の使い方(豆はこび)を実施しました。</p>
連絡先	住所 八尾市本町3-10-10 八尾市婦人会館内 電話 072-922-6185 FAX 072 993-2772

団体名	健康おおさか21・食育推進企業団
団体等の概要	<p>平成18年1月25日、食品メーカー16社によって設立。 「野菜バリバリ朝食モリモリ」を合言葉に、大阪府と関連団体と協働しながら、大阪府民の健康で楽しく心豊かな食生活を応援する活動を行っています。</p> <p>【参画企業(16社)】 アサヒビール(株)、エスピー食品(株)、大塚製薬(株)、花王(株)、カゴメ(株)、キッコーマン(株)、キューピー(株)、(株)ニチレイフーズ、日清オイリオグループ(株)、日本ハム(株)、日本ケロッグ(株)、ハウス食品(株)、(株)ポッカコーポレーション、(株)ミツカン、明治乳業(株)、山崎製パン(株)</p> 
活動内容 (現状と今後)	<p>健康おおさか21推進府民会議活動への参画 食育ツアーの実施(大阪府立健康科学センター監修) 春休み・夏休みに、親子で食への理解を深める目的で、スーパーマーケットのバックヤード見学や食品工場見学を延べ8回実施。 「第1回食育推進全国大会」へのブース出展(写真)</p> <p>平成18年6月24日に実施された「第1回食育推進全国大会」に「野菜バリバリ・朝食モリモリ」をテーマにブースを出展。 メニュー提案と商品展示等を通じて、楽しみながら・試食しながら、様々な食育支援活動を確認でき、今後の活動のヒントになると好評を得た。</p> <p>スーパーマーケット等による食育の推進 イズミヤ(株)の店頭をモデルとして消費者参加型の食育啓発活動を行った。 「野菜バリバリ旬の野菜メニューコンテスト」の実施 平成18年度は、四季ごとに年間4回のメニューコンテストを実施。 毎回100通程度の応募があり、書類審査によって選考された10名による実技審査を実施し、大賞作品を決定した。 「野菜バリバリ・朝食モリモリセール」の実施(写真)</p> <p>毎月『朝食を食べよう!』などのテーマに沿って店頭でのセールプロモーションを実施。 メニュー提案を中心に買い物に来ていただいたお客様に分かりやすく訴求を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> 写真 写真 </div>
連絡先	<p>電話 06-6941-0351 内線2524 大阪府健康福祉部地域保健福祉室健康づくり感染症課内</p> <p>URL www.osaka-shokuiku.jp/shokuikuouendan/topics_12.html</p>

団体名	日本チェーンストア協会 関西支部
団体等の概要	<p>「暮らしをもっと豊かにしたい」というチェーンストアの理念と事業活動を支援し、その健全な発展を図るために、昭和42年8月2日に設立され、本年40周年を迎えます。通常会員86社（内 関西支部19社）</p>
活動内容 (現状と今後)	<p>個々の加盟企業においては、それぞれの企業にて独自に「食育」に関する取組を行っており、日本チェーンストア協会としては各企業の取組状況・内容を集約し、発信することを目的とした「食育」に関する取組を行う。</p> <p>食育推進全国大会への参加</p> <p>開催日 平成18年6月24日(土)</p> <p>場所 アジア太平洋トレードセンター</p> <p>参加主旨 消費者に最も近い企業(スーパーマーケット)の「食育」に関する取組の発信を行うことにより、「食育」を身近に感じていただく。</p> <p>実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各加盟企業の取組内容をパネル掲示 ・各加盟企業の「食育」に関する出版物(冊子・リーフレット・ショーカード・レシピカード等)の配布 ・来場者からの質問・問合せへの応答 <p>各企業(スーパーマーケット)における取組事例</p> <p>下記の活動を通じて、地域の食文化の継承・発展の推奨、食事バランスガイドの紹介、地産地消の推進等を行っている。</p> <p>栄養バランスガイドに基づいた惣菜の栄養表示</p> <p>食育をテーマとして健康展、講演会</p> <p>5A DAY活動の実施(1日5皿以上の野菜や200g以上の果物を！)</p> <p>食育体験ツアー(体験型の食育学習を実施)</p> <p>生産地見学ツアー(玉ねぎ収穫・牧場での乳しぼり・黒豆収穫体験など)</p> <p>親子料理教室、工場見学</p> <p>朝食の推奨(売場にて朝食商品をクローズアップ)</p> <p>クッキングサポート(栄養士監修のバランスの良いメニューを紹介)</p> <p>食育に関する情報誌の発行、食育に関するリーフレット配布</p> <p>3A DAY運動の実施(牛乳・ヨーグルト・チーズ1日3回食べよう！)</p> <p>子供対象の食育イベント</p> <p>食育キャンペーンの実施</p> <p>食育をテーマにしたメニュー提案 など</p>
連絡先	<p>電話 072-787-4147</p> <p>URL 072-787-4148</p> <p>E-mail kansaisibu@kansaisuper.co.jp</p>



出展風景

団体名	財団法人 フィットネス21事業団
団体等の概要	スポーツ・身体活動をとおして健康づくり、明るい地域づくりに寄与する目的で昭和61年3月29日に設立されました。
活動内容 (現状と今後)	<p>「野菜バリバリ朝食モリモリ元気っ子」ダンス指導 平成18年6月24日 アジア太平洋トレードセンターATCホール 第1回食育推進全国大会のセレモニー入場者約600名に指導</p>  <p>平成19年3月からおおさか食育通信ホームページのトップページからのダウンロード 平成18年4月から大阪府立健康科学センター運動フロアにおいて、キッズダンス教室を開催し、生徒15名に指導</p> <p>野外活動等において、以下の「食育」を体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の準備・後かたづけの体験 ・ 自分たちで作った食事の美味しさ ・ 野外での身体活動後は、お腹がすき、よく食べる ・ 「いただきます」「ごちそうさま」の感謝を込めて言える <p>平成18年7月5日～7日 京都府立るり溪少年自然の家において、キンダーキャンプを開催し、171人の参加者がありました。</p> <p>平成18年8月4日～6日 京都府舞鶴市野原において、サマーキャンプを開催し、24人の参加者がありました。</p>  <p>食育啓発ポスターの掲示（府内10カ所のスポーツ施設） スポーツ・健康増進施設においての「生活習慣病予防」等のトレーニング指導時に栄養、食事のとり方等に関するアドバイス実施（府内20カ所のスポーツ施設）</p>
連絡先	電話 06-6325-0021

1.対象と方法

大阪府においては食育担当部局が健康づくり部局に置かれている。このことは保健所等と連携して機動力を発揮するのに好都合であるものの、予算規模が極めて小さいという欠点を持つ。また、大阪府には政令指定都市である大阪市、堺市、中核市である東大阪市、高槻市があり、横断的な調査を実施する際の困難さがある。さらに、食育推進計画を策定するまでの時間の余裕がない。

このため、各市、各保健所の管理栄養士グループの共同研究事業として位置づけ、資料に示したメンバーで、質問紙の配布、回収から入力までの汗をかくこととした。策定した質問紙は付録1に示すものである。

すなわち関心の高いボランティア集団や協力企業等の状況を把握するための方法として各種講演会などの参加者に実施すること、関心の低い層も含む一般集団として児童・生徒・学生及びその保護者に調査を実施することを計画した。各種講演会等においては各本庁から、学生・生徒・児童・保護者については各保健所から調査依頼を行い回収することとした。

結果は、質問紙の個人属性回答結果により、幼児や児童・生徒の保護者（以下、保護者）、高校・大学・専門学校等学生（以下、学生）、食育・健康関連ボランティア（以下、ボランティア）、農林漁業・食品関連事業者（以下、事業者）、教育・保育・保健等関係者（以下、教育関係者）に分けて集計し、比較した。

2.結果

2006年1月から9月にかけて回収された質問紙の有効回収数は、7320であった。

配布回収した質問紙の数を配布した講演会の機会ごとに表1に示す。保健所を通じて配布した質問紙の実施方法を配布対象別に表2に示す。

有効回収数を個人属性別にみると、保護者3236（44%）、学生651（9%）、ボランティア1037（14%）、事業者201（3%）、教育関係者1284（18%）であり、上記以外あるいは記入なし1094（15%）であった（重複の場合は双方に分類・図1）。

個人属性別にみた結果を表3に示す。

食育という言葉も意味も知っていた者は、全体の57%を占めた（図2）が、ボランティ

ア、教育関係者では8割、保護者で5割、学生で3割と大きな差があった。食育に関心がある者は、全体の53%であった(図3)が、保護者では4割、学生では3割であった。食育活動を積極的にしている、またはできるだけするようにしている者は、全体で58%であった(図4)が、保護者では5割、学生では4割であった。農業体験がある者は、全体で49%、子どもの食育に農業体験が必要だと思う者は、全体で84%であり、いずれも属性間の差は小さかった。食事バランスガイドを見たことのある者は全体で50%を占め、ボランティアだけが9割と高かった。うちのお店も健康づくり応援団のマークを見たことのある者は、全体で22%、最も高いボランティアでも52%であった。朝食をほとんど毎日食べる者は全体で88%、学生、事業者でも7割を超えた。健康あるいは栄養に関する学習や活動を行う自主的な集まりのある者は、全体で28%であり、ボランティアのみ85%と飛び抜けて高かった。食生活の改善に必要と思うことは、全体で、学校での教育が83%、行政からの情報提供が83%、食品メーカーからの情報提供が81%の順に高く、属性間の差は小さかった。メタボリック・シンドロームの内容を知っている者は、全体で52%、最も高いボランティアで75%、最も低い学生で30%であった。

全体の89%を占める、食育に関心がある、あるいはどちらかといえば関心がある者における関心がある理由を表4に示す。

子どもの心身の健全な発育のために必要だからとした者が86%、食生活の乱れが問題になっているからとした者が75%、生活習慣病の増加が問題になっているからとした者が59%(図3)で、属性間の差は小さかった。

食育活動をあまりしていない、したいと思っているが実際にはしていない、または、したいとも思わないししていない者(全体の35%)における活動をしていない理由を表5に示す。

関心はあるが他のことで忙しいからが54%、関心はあるが食費を安くすることの方が重要だからが27%、食育自体についてよく知らないからが20%であった(図4)。属性別に見ると、他のことで忙しいからがどの属性でも最も高いものの、活動をしたくても情報が入手できないからが、事業者、教育関係者で2番目に、ボランティアで3番目に高かった。

農業体験のある者(全体の49%)における体験内容は、収穫が77%、栽培開始が68%、収穫後の加工が43%、栽培途中が31%であり、属性間の差は小さかった(表6)。

農業体験のない者(全体の51%)において、体験してみたい者は54%であり、属性間の差は小さかった(表7)。

食事バランスガイドを見たことのある者(全体の50%)における見た場所、参考にする割合を表8に示す。

見た場所は、保健所や市町村の講習会や広報が50%、スーパーマーケットが31%、雑

誌・本が28%であった。属性別に見ると、学生と教育関係者では、職場や学校の講習会や広報が高く、ボランティアと事業者では、シンポジウムなどのイベントが高かった。ほぼ毎食参考に行っている者は11%、毎日1食は参考に行っている者は13%、ときどき参考に行っている者は44%、ほとんど参考に行かない者は30%であった。属性別にみると、ほとんど参考に行かない者が、ボランティアで1割と低く、学生で6割と高かった。

うちのお店も健康づくり応援団のマークを見たことのある者(全体の22%)のうち、栄養成分表示を参考にしてメニューを選ぶ割合を表9に示す。

いつも参考に行っている者は22%、ときどき参考に行っている者は61%、ほとんど参考に行かない者は19%であった。属性別にみると、ほとんど参考に行かない者が、ボランティアで8%と低く、学生で38%と高かった。

自主的な集まりのあると答えた者(全体の28%)における参加状況を表10に示す。

現在参加している者の3分の2以上をボランティアが占めていた。

3. 考察

食育推進計画策定の必要が明らかになってから実際に質問紙を回収し終わるまでに半年の余裕しかなかったこともあって、当初計画と異なり児童生徒の保護者についてはPTA役員等を中心とした比較的協力的な関心の高い層からの回収になった。学生も、全数回収できたところは専門科の学生だけであるため、関心の高い層になった可能性が高い。このことは、学生でも朝食を毎日食べる者が73%にも上ったことから推測できる。

5年間という比較的短期の計画を立てるために、関心の高いボランティア集団や協力事業者、中心となる教育関係者の状況を把握する目的に沿った調査は実施できたものの、関心の低い層も含む一般集団の状況把握には適さない調査となったと判断する。保護者と学生についても、関心のある層へのアプローチを考えるための材料として使用すべきと考える。また、数値目標に上げるためには、結果評価の際も、同様にバイアスのかかる調査方法をとる必要が生じたと考える。

このように関心の高い対象であっても、保護者、学生では、食育という言葉の周知、関心、活動とも低く、よく知らないから活動していないとする結果からも、まず、周知が必要と考える。学校での教育、行政からの情報提供、食品メーカーからの情報提供が、そのための方策として求められていた。ただし、他のことで忙しい中でできること、食費が増加しないこと、に留意したアプローチの工夫が必要であると考えられた。

一方、ボランティア、教育関係者、事業者では、周知度は高いが、活動している者はまだ十分に多くない。他のことで忙しい中でもできることという範囲で、情報の提供が求められていると考えられた。情報提供者としての行政の役割、特に、地域に密着した保健所

に求められる役割は大きいと考える。

農業体験については、したことのない者でも過半数がしてみたいと回答した。農業体験を通じて、食育にアプローチする方策も、とるべき施策のひとつと考える。特に、子どもの食育には必要とする者が圧倒的多数であったので、子どもをターゲットとしたアプローチを中心に据えるべきと考える。

食環境整備については、食事バランスガイドの場合、見たことのある者は50%に上るものの、毎日1食以上参考にしている者は、見たことのある者の24%に過ぎなかった。また、講習会や広報、雑誌や本、新聞などからの情報が主であり、スーパーマーケットの野菜売り場などには掲示がなされてきたものの、外食店やテイクアウト店における掲示は少ないことが、参考にする喫食機会自体の少なさにつながっているためと考えられる。うちのお店も健康づくり応援団の店の場合、マークを見たことのある者は全体の22%と食事バランスガイドに比し少なかったが、見たことのある者のうち、栄養成分表示を参考にしてメニューを選ぶ割合は、いつもが22%、ときどきが61%であり、平成3年から続く取り組みが浸透しているものと考えられた。このことから、食事バランスガイドについても、外食、中食における表示の促進により、参考にする者の割合を増加させることができると考えた。

メタボリック・シンドロームの内容を知っている者は、最も高いボランティアでも75%であり、国の22年度目標値である80%に達していない。ただし、本調査期間内でも、初期に回収されたものに比し晩期に回収されたもので認知割合が高いことから、期間中にマスコミによる多くの報道がなされたことが、認知割合の上昇に大きく寄与したと考える。平成20年度以降の特定健診、特定保健指導の義務化に伴い、またマスコミ報道も増加するであろうし、保険者からの広報も強化されると想定されるため、認知割合の上昇はそれらに任せ、われわれは、予防、改善のための取り組みに力を注ぎたいと考える。

4. まとめ

全大阪行政職栄養士の共同作業として、食育に関する質問紙調査を実施した。食育の推進者側における情報の流通、協力態勢の構築が、府民各層への周知と並行して必要と考えられた。農業体験を含む食育推進のための施策が、子どもを重点として、求められていると考えられた。

図1. 個人属性別にみた回答者の割合

性別：男1112名 女6208名 不明434名

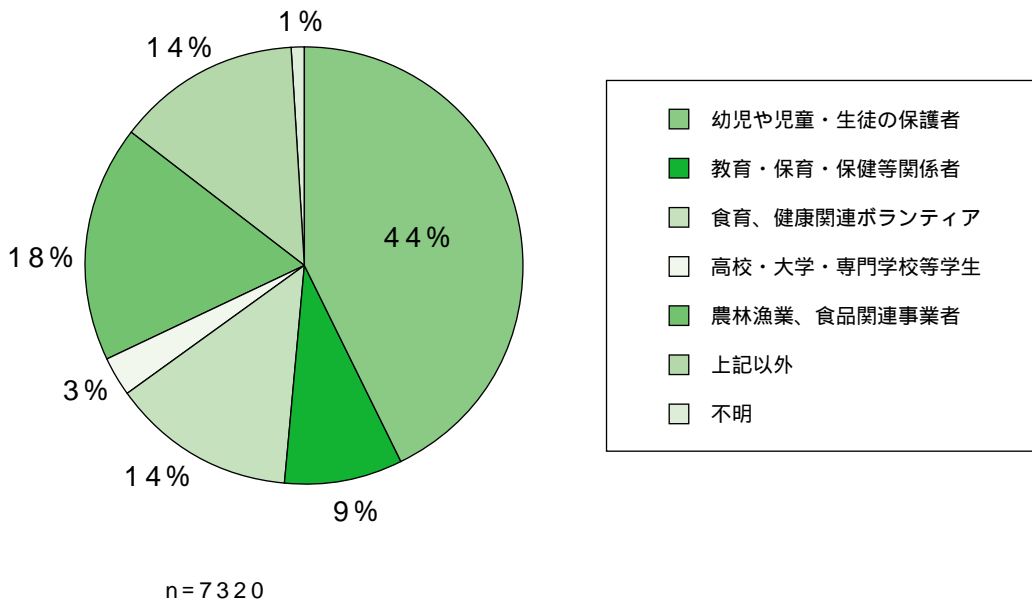


図2. 食育の「周知度」

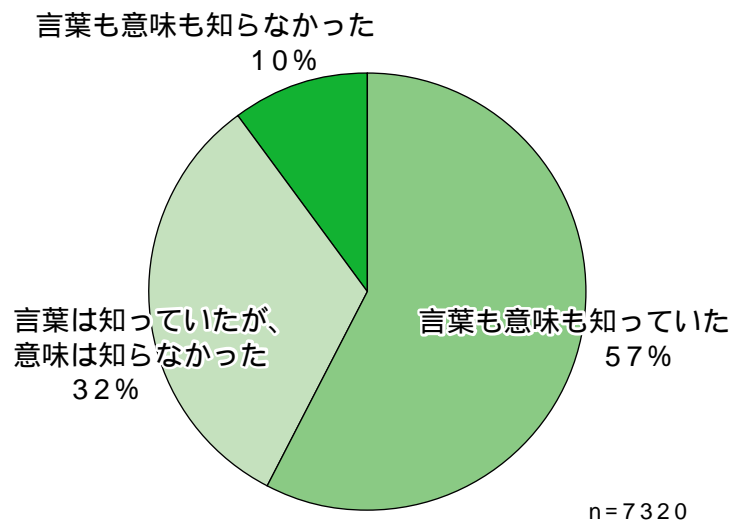
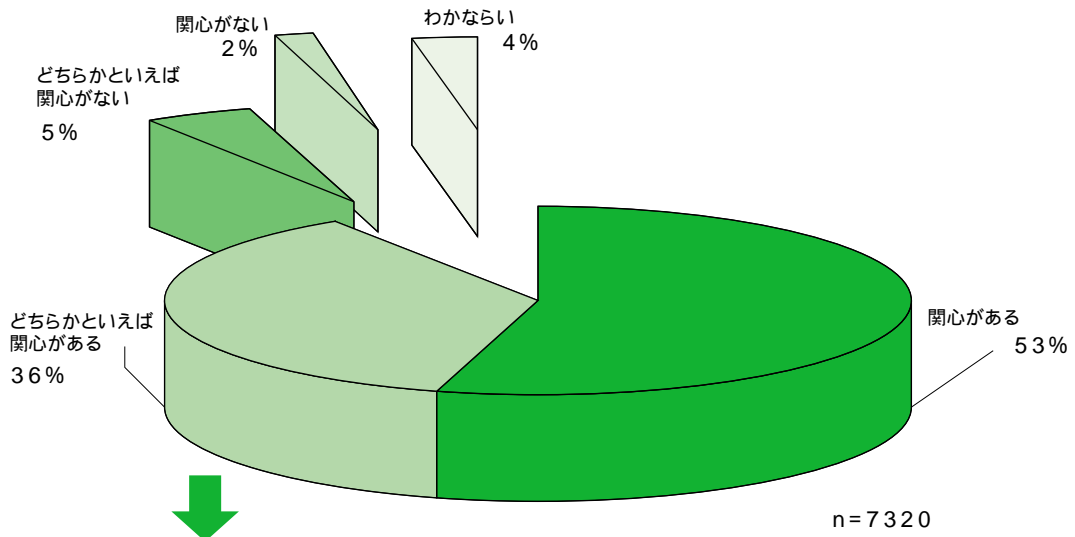


図3. 食育への「関心」

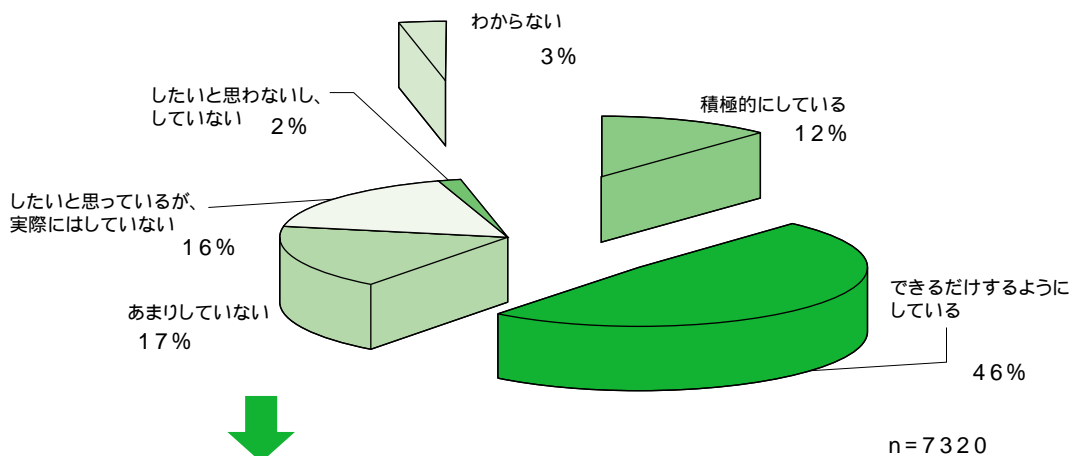


「関心がある理由」 回答数の多かった上位3つ(複数回答)

- 子どもの心身の健全な発育のために必要 5417名
- 食生活の乱れ 4873名
- 生活習慣病の増加が問題になっているから 3917名

図4. 食育に関する活動

【食育に関する活動】とは 栄養バランスのとれた食生活の実践 より安全な食品の購入 農業生産・加工活動への参加・体験 食に関する伝統行事への参加 食生活の改善に関する勉強会への参加 食に関わるボランティア活動への参加 食料自給状況に関する理解の向上



「活動をしていない理由」 回答数の多かった上位3つ(複数回答)

- 他のことで忙しい 1375名
- 食費を安くすることのほうが重要 687名
- 「食育」自体についてよく知らないから 501名

表1. 質問紙の配布回収の機会

	回収枚数
健康ふれ愛推進養成講座	164
農政室フォーラム	301
健康おおさか21推進フォーラム	179
イズミヤ総研食育シンポジウム	110
大阪市食生活改善推進員協議会総会	331
大阪府食生活改善連絡協議会総会	262
食育推進ボランティア研修会	113
イズミヤ枚方店	154
イズミヤ平野店	271
イズミヤ若江岩田店	145
オークワ和泉小田店	199
関西スーパーベルタ店	206
近商ストア松原店	172
ジャスコ北花田店	200
ダイエーおとり店	159
阪急オアシスときわ台店	108
大阪府(農林漁業・食品関連)講演会	77

表2. 保健所を通じた質問紙の配布回収方法（対象者別）

区分	管轄	対象者	どこに配布	場所・機会	～を通じて回収
保護者	A保健所	保育園の保護者	保育園	保育園	保育園
	B保健所	保護者	講演会	保護者講演会	講演会
	C保健所	保護者、PTA	講演会、会議	保護者講演会、PTA会議	講演会、PTA会議、教育委員会
	D保健所	PTA（保護者）	教育委員会	PTA会議	教育委員会
	E保健所	保護者	学校	学校イベント	イベント
	F保健所	保護者	健康展	健康展	健康展
	G保健所	保護者	講演会	保護者講演会	講演会
	H保健所	小中学校のPTA（保護者）	教育委員会	小中PTA役員	教育委員会
	I保健所	保護者	講演会	保護者講演会	講演会
	J保健所	保護者	学習会	保護者学習会	学習会
	K保健所	小学校の保護者	小学校	小学校	学校
	L保健所	幼稚園、小学校の保護者	幼稚園・小学校	幼稚園・小学校	教育委員会
	M保健所	小学校の保護者	小学校	小学校	小学校
	N保健所	幼稚園の保護者	幼稚園	幼稚園	幼稚園
	O市	保護者	各区30ずつ親子料理教室あるいは乳幼児健診時	親子料理教室、乳幼児健診	教室、健診
	P市	小学校の保護者	小学校	全保護者	教育委員会
	Q市	保育所 小学校 中学校の保護者	保育所 小学校 中学校	1保育所2クラス（参観日） 小学校1校（給食試食会参加者） 中学校1校（PTAの集まり時）	保育所、小学校、中学校
	R市	3歳児、小学校の保護者	3歳児健診、親子クッキング教室	3歳児健診、親子クッキング教室	教室、健診
	学生	D保健所	普通科大学生	大学	大学
E保健所		普通科高校生	高校	高校	高校
F保健所		普通科大学生	大学	大学	大学
G保健所		栄養士課程短大生	短大	短大	短大
H保健所		普通科高校生、保育学科短大生	短大	短大	短大
L保健所		普通科大学生	大学	大学	大学
M保健所		看護師養成専門学校生	保健所	保健所臨地実習	保健所
N保健所		保健福祉科大学生	大学	大学	大学
O市		実習生（主に管理栄養士）	保健所	保健所	保健所
関係者	A保健所	保育士、薬剤師会員、保健師	保育園、健康まつり	保育園、健康まつり	保育園、健康まつり
	B保健所	保育士、保育士（園職員）	研修会、保育園	研修会、保育園	研修会、保育園
	C保健所	保育士（園職員）、幼稚園職員	保育園、幼稚園	保育園、幼稚園	保育園、幼稚園
	D保健所	保育士（園職員）	指導者研修会	指導者研修会	指導者研修会
	E保健所	ボランティア	保健センター	保健センター	保健センター
	F保健所	市町職員	関係者会議	関係者会議	
	G保健所	保育士、幼稚園職員	研修会	研修会、幼稚園	研修会、幼稚園
	H保健所	保育士（園職員）	保育園	保育園	市役所
	I保健所	保育士など	指導者研修会	指導者研修会	研修会
	J保健所	保育士など	関係者研修会	関係者研修会	研修会
	K保健所	小学校職員	小学校	小学校	学校
	L保健所	市町職員（保健センター、市町教委）	市町	市町	市町
	M保健所	市町職員（保健センター、市町教委）	市町	市町	市町
	N保健所	市町職員（保健センター、市町教委）	市町	市町	市町
	O市	教諭 保育士 栄養士	教育委員会 健康福祉局 保健福祉センター	教育委員会 健康福祉局 保健福祉センター	教育委員会 健康福祉局 保健福祉センター
	P市	保育所、小学校、中学校・幼稚園職員	保育所、小学校、中学校、幼稚園	全保育所・全小中学校幼稚園に各1部ずつ配布	福祉部保育課 教育委員会学校教育推進室
	Q市	食育フェア担当者（学校保健、事務管理職、農政関係） 保健所職員（栄養士、保健師、事務職）	会議 保健所	会議 保健所	総合調整課 保健所
R市	小学校教諭、保育所職員、管理栄養士、保健師	教育委員会 保健センター	小学校教諭（30部） 保育所職員（30部） 保健センター職員（40部）	教育委員会 保健センター	

表3. 個人属性別にみた回答者数

	大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 全体内訳：男1112名 女6208名 計.7320名	全体 7320名 100%	保護者 3236名 全体の44%	学生 651名 全体の9%	ボランティア 1037名 全体の14%	事業者 201名 全体の3%	教育関係 1284名 全体の18%
周知度	言葉も意味も知っていた	4178名 57%	1659名 51%	214名 33%	870名 84%	136名 68%	1015名 79%
	言葉は知っていたが、意味は知らなかった	2334名 32%	1258名 39%	263名 40%	131名 13%	55名 27%	227名 18%
	言葉も意味も知らなかった	759名 10%	308名 10%	174名 27%	15名 1%	6名 3%	35名 3%
関心	関心がある	3874名 53%	1369名 42%	204名 31%	898名 87%	140名 70%	830名 65%
	どちらかといえば関心がある	2636名 36%	1514名 47%	256名 39%	122名 12%	51名 25%	391名 30%
	どちらかといえば関心がない	346名 5%	157名 5%	86名 13%	6名 1%	4名 2%	38名 3%
	関心がない	114名 2%	26名 1%	50名 8%	0名 0%	1名 0%	7名 1%
	わからない	290名 4%	151名 5%	51名 8%	2名 0%	4名 2%	12名 1%
活動	積極的にしている	857名 12%	172名 5%	44名 7%	376名 36%	34名 17%	172名 13%
	できるだけするようにしている	3393名 46%	1498名 46%	195名 30%	557名 54%	83名 41%	690名 54%
	あまりしていない	1239名 17%	657名 20%	164名 25%	22名 2%	31名 15%	173名 13%
	したいと思っているが、実際にはしていない	1192名 16%	674名 21%	142名 22%	30名 3%	38名 19%	178名 14%
	したいとは思わないし、していない	117名 2%	38名 1%	38名 6%	1名 0%	1名 0%	10名 1%
	わからない	236名 3%	110名 3%	55名 8%	0名 0%	5名 2%	15名 1%
農業	体験がある	3575名 49%	1456名 45%	315名 48%	567名 55%	136名 68%	762名 59%
	子どもの食育に必要である	6166名 84%	2771名 86%	524名 80%	898名 87%	172名 86%	1148名 89%
食事バランスガイド	見たことがある	3625名 50%	1323名 41%	261名 40%	935名 90%	94名 47%	672名 52%
うちのお店も健康づくり応援団	マークのついたお店を見たことがある	1621名 22%	486名 15%	131名 20%	543名 52%	37名 18%	315名 25%
	マークのついたお店を見たことがない	4435名 61%	2178名 67%	406名 62%	363名 35%	130名 65%	778名 61%
	わからない	999名 14%	512名 16%	102名 16%	83名 8%	21名 10%	156名 12%
朝食摂取	ほとんど毎日食べる	6425名 88%	2868名 89%	477名 73%	980名 95%	149名 74%	1169名 91%
	週2～3日食べない	331名 5%	152名 5%	83名 13%	7名 1%	21名 10%	42名 3%
	週4～5日食べない	63名 1%	17名 1%	22名 3%	3名 0%	2名 1%	15名 1%
	ほとんど食べない	334名 5%	161名 5%	62名 10%	6名 1%	20名 10%	44名 3%
自主的な集まり	ある	2075名 28%	545名 17%		880名 85%	31名 15%	367名 29%
	ない	2436名 33%	1052名 33%	271名 42%	56名 5%	110名 55%	547名 43%
	わからない	2585名 35%	1584名 49%	265名 41%	50名 5%	48名 24%	345名 27%
食習慣改善 (複数回答)	必要な方策 1位	学校での教育 6093名 83%	学校での教育 2899名 90%	栄養成分表示 560名 86%	行政からの 情報提供 929名 90%	学校での教育 166名 83%	学校での教育 1165名 91%
	必要な方策 2位	行政からの 情報提供 6052名 83%	行政からの情 報提供 2753名 85%	学校での教育 542名 83%	食品メーカーか らの情報提供 821名 79%	コンビニ等で の情報提供 152名 76%	行政からの 情報提供 1113名 87%
	必要な方策 3位	食品メーカーか らの情報提供 5909名 81%	食品メーカーか らの情報提供 2743名 85%	食品メーカーか らの情報提供 541名 83%	学校での教育 805名 78%	食品メーカーか らの情報提供 152名 76%	食品メーカーか らの情報提供 1106名 86%
メタボリック シンドローム	内容を知っている	3804名 52%	1542名 48%	197名 30%	774名 75%	102名 51%	794名 62%
	言葉を聞いたことはあるが内容は知らない	1884名 26%	966名 30%	162名 25%	181名 17%	49名 24%	291名 23%
	知らない	1444名 20%	676名 21%	288名 44%	48名 5%	39名 19%	182名 14%

表4. 「食育」に関心がある理由（複数回答）

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問2 食育に関心がある・どちらかと言えば 関心があると回答した者の総数 男846名 女5664名 計.6510名	全体 6510名 100%	保護者 2883名 100%	学生 460名 100%	ボランティア 1020名 100%	事業者 191名 100%	教育関係者 1221名 100%
子どもの心身の健全な発育のために必要だから	5417名 86%	2727名 95%	298名 65%	833名 82%	128名 67%	1106名 91%
食生活の乱れ（栄養バランスの崩れ、不規則な食事等）が問題になっているから	4873名 75%	2005名 70%	374名 81%	870名 85%	128名 67%	1039名 85%
肥満ややせすぎが問題になっているから	2708名 42%	1040名 36%	222名 48%	552名 54%	77名 40%	517名 42%
生活習慣病（ガン、糖尿病等）の増加が問題になっているから	3917名 59%	1503名 52%	297名 65%	789名 77%	98名 51%	714名 58%
BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから	2425名 39%	1042名 36%	149名 32%	515名 50%	58名 30%	380名 31%
食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	1700名 27%	501名 17%	106名 23%	467名 46%	82名 43%	433名 35%
食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	2141名 33%	658名 23%	113名 25%	561名 55%	83名 43%	374名 31%
消費者と生産者間の交流や信頼が足りないと思うから	1036名 15%	292名 10%	52名 11%	309名 30%	65名 34%	172名 14%
有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから	1912名 31%	644名 22%	85名 18%	501名 49%	50名 26%	350名 29%
大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから	2365名 37%	887名 31%	183名 40%	475名 47%	77名 40%	476名 39%
自然の恩恵や食に対する感謝の念がうすれているから	2831名 44%	1153名 40%	167名 36%	544名 53%	90名 47%	607名 50%
食中毒予防などの食品衛生教育が重要だから	1806名 30%	718名 25%	117名 25%	423名 41%	35名 18%	317名 26%
その他	221名 3%	86名 3%	20名 4%	42名 4%	12名 6%	48名 4%
特になし	26名 0%	6名 0%	3名 1%	10名 1%	0名 0%	0名 0%
わからない	30名 1%	8名 0%	3名 1%	3名 0%	0名 0%	2名 0%

表5. 「食育」に関する活動や行動をしていない理由（複数回答）

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問4 食育活動をしていない（あまりしていない、 実際にはしていないを含む）と回答した者の総数 男539名 女2009名 計.2548名	全体 2548名 100%	保護者 1369名 100%	学生 344名 100%	ボランティア 53名 100%	事業者 70名 100%	教育関係者 361名 100%
自分や家族の食事や食生活に関心がなから	73名 3%	20名 1%	27名 8%	4名 8%	3名 4%	4名 1%
食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等） で忙しいから	1375名 54%	734名 54%	173名 50%	25名 47%	44名 63%	271名 75%
食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が 重要だから	687名 27%	499名 36%	77名 22%	10名 19%	14名 20%	38名 11%
食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから	162名 6%	68名 5%	35名 10%	4名 8%	2名 3%	13名 4%
「食育」自体についてよく知らないから	501名 20%	274名 20%	93名 27%	8名 15%	13名 19%	36名 10%
活動や行動をしたくても情報が入手できないから	387名 15%	204名 15%	38名 11%	9名 17%	17名 24%	43名 12%
その他	111名 4%	55名 4%	14名 4%	4名 8%	4名 6%	12名 3%
特になし	170名 7%	90名 7%	23名 7%	5名 9%	2名 3%	19名 5%
わからない	75名 3%	41名 3%	14名 4%	0名 0%	2名 3%	7名 2%

表6. 農業体験の内容

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問6 農業に関する体験「あり」と回答した者 男595名 女2980名 計.3575名	全体 3575名 100%	保護者 1456名 100%	学生 315名 100%	ボランティア 567名 100%	事業者 136名 100%	教育関係者 762名 100%
栽培開始時期の作業体験がある（田植え、種まき等）	2423名 68%	980名 67%	220名 70%	377名 66%	95名 70%	563名 74%
栽培途中の作業体験がある（除草やぶどうの袋かけ等）	1124名 31%	351名 24%	94名 30%	202名 36%	68名 50%	301名 40%
収穫作業の体験がある（稲刈りや芋掘り等）	2753名 77%	1154名 79%	220名 70%	435名 77%	109名 80%	634名 83%
収穫後の加工体験がある（稲わら細工や餅つき等）	1520名 43%	557名 38%	128名 41%	316名 56%	66名 49%	379名 50%
その他	238名 7%	66名 5%	22名 7%	52名 9%	15名 11%	37名 5%

表7. 農業体験をしてみたい者の数

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問6 農業に関する体験「なし」と回答した者 男445名 女2936名 計.3381名	全体 3381名 100%	保護者 1650名 100%	学生 310名 100%	ボランティア 427名 100%	事業者 52名 100%	教育関係者 480名 100%
体験をしてみたい	1815名 54%	907名 55%	149名 48%	253名 59%	38名 73%	282名 59%
体験をしてみたいとは思わない	1165名 34%	564名 34%	129名 42%	126名 30%	11名 21%	117名 24%

表8. 食事バランスガイドを見た場所（複数回答）と参考にする割合

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問7 「食事バランスガイドを見たことがある」と 回答した者 男300名 女3325名 計.3625名	全体 3625名 100%	保護者 1323名 100%	学生 261名 100%	ボランティア 935名 100%	事業者 94名 100%	教育関係者 672名 100%	
食事バランスガイドを見た場所（複数回答）	スーパーマーケット	1124名 31%	404名 31%	69名 26%	335名 36%	37名 39%	180名 27%
	コンビニエンスストア	197名 5%	45名 3%	9名 3%	87名 9%	8名 9%	46名 7%
	百貨店（デパート）	211名 6%	62名 5%	7名 3%	76名 8%	3名 3%	35名 5%
	その他の商店	65名 2%	23名 2%	2名 1%	35名 4%	2名 2%	6名 1%
	ファミリーレストラン	180名 5%	70名 5%	14名 5%	56名 6%	5名 5%	37名 6%
	飲食店（ファミリーレストラン以外）	86名 2%	29名 2%	4名 2%	33名 4%	2名 2%	19名 3%
	社員食堂や学生食堂	97名 3%	38名 3%	19名 7%	14名 1%	6名 6%	12名 2%
	職場や学校の講習会や広報	841名 23%	284名 21%	123名 47%	138名 15%	25名 27%	274名 41%
	保健所や市町村の講習会や広報	1803名 50%	540名 41%	37名 14%	770名 82%	37名 39%	363名 54%
	シンポジウムなどのイベント	669名 18%	107名 8%	25名 10%	378名 40%	34名 36%	129名 19%
	新聞	898名 25%	261名 20%	30名 11%	353名 38%	21名 22%	151名 22%
	雑誌・本	1027名 28%	409名 31%	73名 28%	225名 24%	21名 22%	236名 35%
	テレビ	658名 18%	241名 18%	41名 16%	176名 19%	15名 16%	100名 15%
	電車の中吊り広告、広報ポスター	145名 4%	46名 3%	7名 3%	55名 6%	1名 1%	35名 5%
	インターネット（ホームページ）	317名 9%	98名 7%	44名 17%	92名 10%	22名 23%	114名 17%
	その他	275名 8%	108名 8%	37名 14%	60名 6%	6名 6%	37名 6%
考えたり選んだりする 参考にしてメニューを 考へたり選んだりする	ほぼ毎食参考になっている	408名 11%	118名 9%	18名 7%	149名 16%	7名 7%	78名 12%
	毎日1食は参考になっている	461名 13%	159名 12%	8名 3%	197名 21%	6名 6%	54名 8%
	時々参考になっている	1592名 44%	577名 44%	78名 30%	465名 50%	37名 39%	260名 39%
	ほとんど参考にしない	1092名 30%	460名 35%	156名 60%	103名 11%	43名 46%	267名 40%

表9. 「うちのお店も健康づくり応援団」における栄養成分表示の活用度

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問8 うちのお店も健康づくり応援団の店を 見たことが「ある」と回答した者 男144名 女1477名 計.1621名	全体 1621名 100%	保護者 486名 100%	学生 131名 100%	ボランティア 543名 100%	事業者 37名 100%	教育関係者 315名 100%	
栄養成分表示を参考に 考へたり選んだりする	栄養成分表示をいつも参考にしてメニューを選ぶ	359名 22%	66名 14%	20名 15%	187名 34%	8名 22%	70名 22%
	栄養成分表示を時々参考にして選ぶ	953名 59%	301名 62%	59名 45%	291名 54%	17名 46%	188名 60%
	栄養成分表示をほとんど参考にしない	307名 19%	131名 27%	50名 38%	42名 8%	9名 24%	62名 20%

表10. 自主的な集まりへの参加割合

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市 問10 自主的な集まりが「ある」と 回答した者 男157名 女1918名 計.2075名	全体 2075名 100%	保護者 545名 100%	学生 109名 100%	ボランティア 880名 100%	事業者 31名 100%	教育関係者 367名 100%
現在参加している	1292名 62%	200名 37%	51名 47%	840名 95%	18名 58%	147名 40%
過去1年の間に参加したことがある	307名 15%	142名 26%	15名 14%	29名 3%	8名 26%	83名 23%
過去1年位の間には参加しなかった	474名 23%	223名 41%	45名 41%	16名 2%	6名 19%	137名 37%

「食育」に関するアンケートのお願い

大阪府では、食育基本法が平成17年7月15日付けで施行されたことに伴い、府民の皆様方の「食育」に関する意識等について、広く調査・集計させていただくことになりました。

これは、「大阪府食育推進計画」策定の際の基礎資料とさせていただくためのものです。

なお、アンケート結果は大阪府における食育推進の目的以外に使うことはありません。ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

大阪府

性別	1. 男性	2. 女性				
年齢	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60歳代
	7. 70歳代以上					
あてはまる項目すべてに をつけてください。						
1. 幼児や児童・生徒の保護者	2. 高校・大学・専門学校等学生		3. 食育、健康関連ボランティア			
4. 農林漁業、食品関連事業者		5. 教育・保育・保健等関係者		6. 1～5以外		

下の資料をよくお読みになった後にお答えください。

平成17年6月、国会で「食育基本法」が成立しました。

この法律は、『栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、「食」の安全上の問題』等に代表されるような、「食生活をめぐる環境の変化に伴い、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが緊要な課題となっていること」に対応して制定されたものです。

また、この法律の中では、「食育」の意味について、『「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる』こととされています。

これまで政府では、文部科学省、厚生労働省、農林水産省等がそれぞれの立場から「食育」を推進してきました。

今後は、この法律に基づき、政府一体となって食育推進基本計画を策定し、都道府県や市町村の協力をいただきながら、総合的、計画的に「食育」に関する施策を推進することとしています。

(内閣府大臣官房政府広報室「食育に関する特別世論調査」より)

問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。あてはまる番号を 1つだけ 選んで をつけてください。

- (1) 言葉も意味も知っていた (2) 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
(3) 言葉も意味も知らなかった

問2 あなたは「食育」に関心がありますか。それとも関心がありませんか。あてはまる番号を 1つだけ 選んで をつけてください。

- (1) 関心がある 問3へ
(2) どちらかといえば関心がある 問3へ
(3) どちらかといえば関心がない 問4へ
(4) 関心がない 問4へ
(5) わからない 問4へ

問3 あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選んで をつけてください。

- (1) 子どもの心身の健全な発育のために必要だから
- (2) 食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ、不規則な食事等)が問題になっているから
- (3) 肥満ややせすぎが問題になっているから
- (4) 生活習慣病(ガン、糖尿病等)の増加が問題になっているから
- (5) BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから
- (6) 食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから
- (7) 食料を海外からの輸入に依存しすぎるのが問題だから
- (8) 消費者と生産者間の交流や信頼が足りないと思うから
- (9) 有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから
- (10) 大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから
- (11) 自然の恩恵や食に対する感謝の念がうすれているから
- (12) 食中毒予防などの食品衛生教育が重要だから
- (13) その他(ご記入ください)]
- (14) 特にない
- (15) わからない

下の資料をよくお読みになった後にお答えください。

誰もが健全な食生活を行うためには、国や地方公共団体だけでなく、子どもから高齢者まで国民一人ひとりが「食育」に取り組むことが必要です。

「食育に関する活動」には、例えば、次のようなものが含まれます。

栄養バランスのとれた食生活の実践 より安全な食品の購入 農業生産・加工活動への参加・体験 食に関する伝統行事への参加
食生活の改善に関する勉強会への参加 食に関わるボランティア活動への参加
食料自給状況に関する理解の向上

問4 あなたは、日ごろから、健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。それともしていませんか。あてはまる番号を1つだけ選んで をつけてください。

- (1) 積極的にしている 問6へ
- (2) できるだけするようにしている 問6へ
- (3) あまりしていない 問5へ
- (4) したいと思っているが、実際にはしていない 問5へ
- (5) したいとは思わないし、していない 問5へ
- (6) わからない 問6へ

問5 あなたが「食育」に関する活動や行動をしていない理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選んで をつけてください。

- (1) 自分や家族の食事や食生活に関心がないから
- (2) 食事や食生活への関心はあるが、他のこと(仕事、趣味等)で忙しいから
- (3) 食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから
- (4) 食事や食生活を特に意識しなくても問題はないから
- (5) 「食育」自体についてよく知らないから
- (6) 活動や行動をしたくても情報が入手できないから
- (7) その他(ご記入ください)]
- (8) 特にない
- (9) わからない

問6 あなた自身、またはご家族の方が、農業に関する体験をされたことはありますか？

- (1)ある (問6 2) (問6 4)へ
(2)ない (問6 3) (問6 4)へ

(問6 2) 参加されたことのある体験はどのような内容ですか？ あてはまる番号をすべて選んで をつけてください。

- (1)栽培開始時期の作業体験(田植えや野菜の種まき、定植など)
(2)栽培途中の作業体験(除草やぶどうの袋かけなど)
(3)収穫作業の体験(稲刈りや芋掘り、野菜の収穫など)
(4)収穫後の加工体験(稲わら細工や餅つき、みそづくりなど)
(5)その他(ご記入ください)]

(問6 3) 農業に関する体験をしてみたいですか？

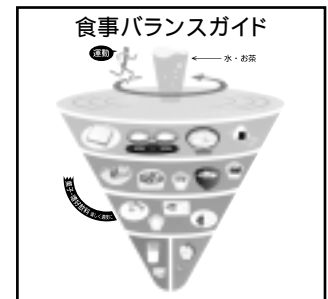
- (1)してみたい (2)してみたいとは思わない

(問6 4) 特に、子ども達の食育を進める上で農業に関する体験は必要ですか。

- (1)必要である (2)必要とは思わない

問7 食事の望ましい組み合わせとおおよその量を示したコマ型のイラスト「食事バランスガイド」(右図)を見たことがありますか。 →

- (1)ある (問7 2) (問7 3)へ
(2)ない 問8へ



(問7 2) どこで(何で)見ましたか。あてはまる番号をすべて選んで をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| (1) スーパーマーケット | (2) コンビニエンスストア |
| (3) 百貨店(デパート) | (4) その他の商店 |
| (5) ファミリーレストラン | (6) 飲食店(ファミリーレストラン以外) |
| (7) 社員食堂や学生食堂 | (8) 職場や学校の講習会や広報 |
| (9) 保健所や市町村の講習会や広報 | (10) シンポジウムなどのイベント |
| (11) 新聞 | (12) 雑誌・本 |
| (13) テレビ | (14) 電車の中吊り広告、広報ポスター |
| (15) インターネット(ホームページ) | (16) その他() |

(問7 3) コマ型の「食事バランスガイド」を参考にしてメニューを考えたり、選んだりしますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。

- (1) ほぼ毎食参考になっている (2) 毎日1食は参考になっている
(3) 時々参考になっている (4) ほとんど参考にしない

問8 外食メニューの栄養成分表示やヘルシーメニューの提供をしている「うちのお店も健康づくり応援団」という右のマークのついたお店を見たことがありますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。 →

- (1)ある (問8 2)へ
(2)ない 問9へ
(3)わからない 問9へ



(問8 2) その場合、栄養成分を参考にしてメニューを選びますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。

- (1) いつも参考にして選ぶ (2) 時々参考にして選ぶ
 (3) ほとんど参考にしない

問9 あなたはふだん朝食を食べますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。

- (1) ほとんど毎日食べる (2) 週2～3日食べない
 (3) 週4～5日食べない (4) ほとんど食べない

問10 あなたの地域、職場や学校等で、健康あるいは栄養に関する学習や活動を行う自主的な集まり(サークル)はありますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。

- (1) ある (問10 2)へ
 (2) ない 問11へ
 (3) わからない 問11へ

(問10 2) あなたは自主的な集まり(サークル)に参加したことがありますか。あてはまる番号を 1つだけ選んで をつけてください。

- (1) 現在参加している
 (2) 過去1年の間に参加したことがある
 (3) 過去1年位の間には参加しなかった

問11 あなたの食習慣を改善しようとする場合、どのようなことが必要と思いますか。それぞれの項目について、「必要と思う」「必要と思わない」の いずれかの番号を選んで をつけてください。

項目	1 必要と思う	2 必要と思わない
ア．保健所、保健センター等、行政からの情報提供	1	2
イ．職場での情報提供	1	2
ウ．スーパーマーケット、コンビニエンスストア等での情報提供	1	2
エ．食品メーカーからの情報提供	1	2
オ．飲食店での情報提供	1	2
カ．市販食品や外食メニューの栄養成分表示	1	2
キ．身近な場所での栄養士など専門家によるアドバイス	1	2
ク．学校での教育	1	2
ケ．時間的なゆとり	1	2

問12 あなたは「メタボリック・シンドローム」(内臓脂肪症候群)とは何か知っていますか。あてはまる番号を 1つ選んで をつけてください。

- (1) 内容を知っている
 (2) 言葉を聞いたことはあるが内容は知らない
 (3) 知らない

御協力ありがとうございました。

事務局欄		
実施エリア	実施分類	徴集場所

(大阪府健康福祉部健康づくり感染症課 TEL 06-6941-0351 内線2524)